

教科	科目	単位数	学年	集団
体育	スポーツⅢ	1	1	スポーツ探究科

使用教科書	副教材等
	アクティブスポーツ（大修館）

科目の目標
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。</p> <p>(2) 武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	<p>柔道の歴史や文化、技術およびその高め方、合理的な練習方法や練習計画の立て方、体力の高め方、課題解決の方法、審判法や試合の企画、運営の仕方、初歩的な指導法、見取り稽古の仕方や動作分析の仕方を理解することが出来る。</p> <p>また、素手で相手と直接組み合って相手の動きに応じて投げる、抑えるなどによって勝敗を競う特性を踏まえ、基本動作を用いて投げ技、固め技、技の連絡変化、防御などの対人的技能を高めた攻防が出来る。</p>
②思考・判断・表現	<p>禁止事項などの試合のルールを遵守し、技術の上達に向けて互いに高め合おうとすることが出来る。</p> <p>自己の課題を解決すると共に、生涯を通して、武道の振興発展に関わることが出来るよう、習得した知識を活用して、課題の設定や情報の分析及び適切な選択、活動の評価、目標の修正や練習計画の組み立てが出来るようにする。（行動観察・レポート）</p>
③主体的に学習に取り組む態度	<p>柔道の学習に主体的に取り組むと共に、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にすることが出来る。相手の技能の程度や施設の状況等に応じて、運動量を調節、危険を予見しての回避行動、健康・安全を確保し事故防止を図ること等が出来る。（行動観察・レポート）</p>
評価方法	
<p>①知識・技能 行動観察・レポート・スキルテスト ②思考・判断・表現 行動観察・レポート ③主体的に学習に取り組む態度 行動観察・レポート</p>	

学習計画						
月	領域	単元	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	柔道	柔道の基本	礼法や技の成り立ちを学習することにより、相手を敬う武道の精神を理解し、我が国固有の文化を理解している。 柔道の歴史を学習し、創始者である嘉納師範の柔道を越えた体育の理念を理解している。	○		
		受け身の復習 (中学時の確認)	受け身の学習することにより、お互いが安全に練習することが出来るようにし、日常生活にもそれを生かそうとしている。 (前受け身・横受け身・後ろ受け身・前回り受け身)			○
5		体裁きの復習 (中学時の確認)	体裁きによって、技を繰り出すための位置関係を作り、自らの体を投げやすい位置に移動することができる。 力まずに相手を制することができ、崩し（八方向の崩し）を理解している。		○	
6		基本動作の習得 ・立ち技 ・寝技	基本動作や技の基本を学習することにより、人間の身体の仕組みや柔道の楽しさを味わおうとしている。			○
7		補助運動 (回転運動)	攻防に必要な補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、体力を高めようとしている。			○

9	柔道	受け身	安全に柔道を行うために、正しいやり方を理解している。		○	
		体裁き	相手を体裁きによりしっかり崩す技術を身につけている。		○	
		技に応じた基礎体力作り	トレーニングの中に、柔道に類した動きを取り入れて力強く、しなやかに技が繰り出せる基本的な体力を身につけている。	○		
立ち技の復習 (手技・足技・腰技)		立ち技の基本(体裁き・崩し・作り・掛け)を学習することにより、人間の身体の仕組みや理にかなった技の素晴らしさを理解している。 手技＝一本背負い投げ・体落とし 足技＝足払い・小内刈り・大外刈り 腰技＝大腰・払い腰	○			
11		寝技の習得 ・抑え込み ・抑え込みの入り方 ・抑え込みの逃げ方	寝技の基本を学習することにより、人間の身体の仕組みや理にかなった技の素晴らしさを理解している。 抑え込み (袈裟固め・肩固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め) それぞれの抑え込みの逃れ方。 抑え込みまでの相手の返し方。 (うつ伏せ・仰向け・肘膝をついた状態から)	○		
1		受け身	安全に柔道を行うために、正しいやり方を理解している。		○	
		立ち技の約束乱取り	動きながら・組み手から技を仕掛け、相手を投げる一連の動作を相手と動きを合わせて体得しようとしている。			○
2		乱取り ・立ち技 ・寝技	立ち技で自由に技を仕掛け、受けも投げられないようにしようとしている。 投げられた場合はしっかり受け身を取り、自分の身体を守ることができる。 寝技において、自由に相手を抑え込むことができる。 (背中合わせ・仰向け等から始める)	○		○
3		自由稽古	立ち技寝技を駆使して相手を制する技術を身につけている。 (最も試合に近い形の稽古) 立ち技・寝技の自由稽古を通じて、柔道の楽しさを味わおうとしている。	○		○